

今期初、野外コウノトリの産卵を確認

確認日 平成26年2月18日(火)  
 場所 豊岡市祥雲寺 コウノトリの郷公園内仮設人工巣塔  
 産卵したペア



オス J0405 青・黄黄黒 H18.04.16 県立コウノトリの郷公園で生まれる  
 H19.09.22 ハードリリース  
 メス 野生個体 H18.05.01 豊岡市に飛来 推定9歳

野外における産卵はこのペアが今期初となり、順調にいけば3月下旬に卵がふ化する予定です。なお、当園敷地内にあります豊岡市立コウノトリ文化館学習室では、この巣を見る観察用のフィールドスコープと双眼鏡を設置されていますので、ぜひお立ち寄りください。

鶴見カフェのお知らせ

当園の研究者等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」(兵庫県豊岡市中央町3-37)で行っています。お気軽にご参加ください。飲物・お菓子代500円程度が必要です。(詳しい内容等は当園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。)

平成25年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

毎月第3土曜日の午後1時30分から、ガイドウォークを行っています。園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境(コウノトリ育む農法)などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後1時15分から正門前の掲示板横で受付けています。歩きやすい服装でお越しください。

コウノトリの個体数 (H26.2.28現在)

1 飼育コウノトリの個体数

区分	オス	メス	計
県立コウノトリの郷公園	26	33	59
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	16	13	29
養父市八鹿町伊佐地区放鳥拠点	1	1	2
朝来市山東町三保地区放鳥拠点	1	1	2
計	44	48	92

2 野外にいるコウノトリの個体数

区分	オス	メス	計
放鳥コウノトリ	9	10	19
野外繁殖により増えたコウノトリ	20	32	52
野生個体		1	1
計	29	43	72

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先  
 兵庫県立コウノトリの郷公園  
 〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128番地  
 TEL: 0796-23-5666  
 FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp  
 ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp  
 開園時間 : 9:00~17:00  
 休園日 : 毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

コウノトリ通信

(題字: 山岸哲園長)

兵庫県立コウノトリの郷公園  
 平成26(2014)年3月1日発行

No.12

円山川に生息する貝に卵を産む「にがい」魚たち

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 主任研究員 佐川 志朗

兵庫県の河川には180種の魚類が確認されています(県立人と自然の博物館調べ)。そのうち豊岡盆地を流れる円山川水系には113種が確認されています。この数値は兵庫県内でも1,2位を争う値で、県内の日本海側に流れ込む21河川中では最大となっています。円山川の魚類相は、ドジョウ



写真1 淡水二枚貝類の写真(奥よりドブガイ、トンガリササノハバイ、イシガイ)

やフナのような淡水魚の他に、ボラやシラウオ、ハゼ類などの海水が混じる汽水域に住む魚が多いのが特徴となっています。円山川は川の勾配が緩いため(下流から上流に9km川を進んでも標高は1mしか高くない)、潮位の影響で海水が出石川の合流点にまで上がってきます。ですからこのような汽水魚が多いとも考えられます。現在、円山川の支流の出石川で整備している加陽湿地では、河口からの距離が18kmもあるにも関わらず、前述した汽水魚の他にスズキやマハゼなどの海に住む魚までもがみられます。

多くの種類の魚を産する円山川ですが、皆さんは二枚貝(写真1)に卵を産む魚がいることをご存じでしょうか? タナゴ類がその代表的なもので、英名ではBitterling fish(苦い魚)という名前がついています。私は食べたことはありませんが、かなり苦いようです。豊岡盆地ではカネヒラ、イチモンジタナゴ、ヤリタナゴ(写真2)、タイリクバラタナゴ(外来種)が生息しています。このような二枚貝やタナゴ類はほとんどの種がレッドデータブックで絶滅危惧種に選定されており、保全していかなければならない種です。彼らが絶滅に瀕してしまっ



写真2 鎌谷川で確認されたヤリタナゴのオス

た理由としては、生息するもとの環境、すなわち川の増水で水をかぶることが多い湿地やタマリ（氾濫原（写真3））が、河川改修などによりなくなってきたことが原因の一つと考えられています。

在来タナゴ類が絶滅に瀕している中、外来種のタイリクバラタナゴだけは数や分布域が広がっています。彼らは日本在来の種と比較して、移動・分散する頻度が高いことや産卵期が春から秋と長いことが、勢力を増してきている要因と考えられます。また、タナゴ類は産卵管を二枚貝類の出水管に一瞬の



写真3 木曾川の氾濫原（左上：河川と連続するワンド、右下：河川と孤立するタマリ、これらは増水時にはすべてつながる。）



写真4 ヨコハマシジラガイのエラ内のタイリクバラタナゴの仔魚

うちに差し込んで、内部のエラに卵を産み付けます。そして、その卵はエラの中で仔魚になるのですが、卵や仔魚は種類によって形が異なります。例えば仔魚では、カネヒラはダルマ型、イタセンパラ（後述）は流線型をしています。そしてタイリクバラタナゴは矢印型←をしています（写真4）。二枚貝はタナゴに卵を産み付けられると苦しくて吐き出そうとすることがあるのですが、タイリクバラタナゴの仔魚はその形状から吐き出され難いと考えられ、これも勢力を拡大している理由の一つかもしれません。

コウノトリは特別天然記念物ですが、タナゴ類でもイタセンパラという日本最大級のタナゴが天然記念物指定されています。雄はきれいな淡い紫色の婚姻色を示し、大変美しい魚です（写真5）。木曾川（愛知県、岐阜県）では氾濫原域にワンド・タマリといった恒常的もしくは一時的な水域が160か所以上点在しており（写真3）、氾濫原環境がイタセンパラを育てています。そして地域ではこのような氾濫原環境を守ろうと自然再生事業を進めています。円山川もその昔は豊岡盆地全体が広大な氾濫原でした。そしてそのような環境にコウノトリは世代を重ねていたのです。恐らくそのころには、タナゴや二枚貝類も豊富にいて、コウノトリに食べられても痛くもかゆくもない量の魚が生息していたと考えられます。人間の財産や命を守ることはもちろん重要です。しかし、コウノトリや魚たちも地球の財産なので、我々は治水と両立した氾濫原環境の復活ということを考えていかなければなりません。



写真5 木曾川産イタセンパラのオス

遠出しているコウノトリ情報（平成26年1-2月に確認した飛来場所）

- J0022 (2010年生れ、メス) 鹿児島県南さつま市
- J0041 (2011年生れ、メス) 長野県上田市
- J0047 (2012年生れ、メス) 島根県浜田市
- J0048 (2012年生れ、オス) 香川県丸亀市、香川県綾歌郡
- J0049 (2012年生れ、メス) 長崎県対馬市、熊本県八代市、熊本県玉名郡、佐賀県伊万里市
- J0057 (2012年生れ、オス) 和歌山県和歌山市
- J0066 (2013年生れ、オス) 鹿児島県大島郡
- J0067 (2013年生れ、オス) 鹿児島県大島郡、鹿児島県奄美市
- J0072 (2013年生れ、メス) 滋賀県東近江市、滋賀県蒲生郡
- J0073 (2013年生れ、メス) 香川県丸亀市、香川県綾歌郡
- J0078 (2013年生れ、メス) 京都府与謝郡、石川県珠洲市、石川県七尾市
- J0480 (2013年生れ、メス) 熊本県玉名市
- J0481 (2013年生れ、オス) 長崎県対馬市、熊本県八代市、熊本県玉名郡、佐賀県伊万里市



J0047

写真提供 島根県浜田市 石本氏（1月1日撮影）



J0481 (左) J0049 (右)

写真提供 佐賀県伊万里市 豊岡氏（2月11日撮影）

郷公園で確認したいきもの（1月1日～2月28日）

[貝類] カワニナ サカキガイ マシジミ マルタニシ モノアラガイ	ヨシホリの仲間 [昆虫類] ヤマユガ(繭) [両生類] アカガエルの仲間(卵塊) ウシガエル(幼生)	コゲラ シジュウカラ ジョウビタキ シロハラ スズメ セグロセキレイ ツグミ トビ ダイサギ ハシホソガラス ヒヨドリ フクロウ ホオジロ ホオジロガモ マガモ ミヤマホオジロ モス ヤマガラ	ニホンイナジ(土耕跡) ニホンジカ ニホンテン(足跡) [植物/主に 開花中のもの] 《草本》 アセビ フキ(フキノウ)
[甲殻類] スジエビ ミナミヌマエビ	[鳥類] アオサギ イカル イソヒヨドリ エナガ カイツブリ カワウ カワセミ カワラヒワ クサシギ コウノトリ(野生) コガモ	[哺乳類] イタチの仲間(糞)	《木本》 ガマズミ(実) サザンカ ソコ(実)



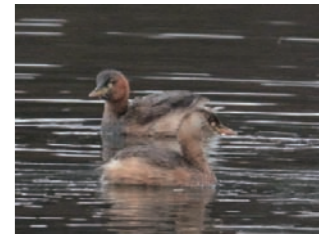
ヤマユガ(繭)



アカガエルの仲間(卵塊)



ホオジロガモ



カイツブリ